

第 36 回 池田町行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和 5 年 2 月 7 日

午後 1 時 30 分～4 時 00 分

Zoom によるオンライン会議

出席者（敬称略）

○委員 9 名：（名簿掲載順）

和澤忠志、宮嶋將晴、山沖義和、丸山史子、瀧澤洋子、村端浩、山崎正治、赤田伊佐雄、辻庄市

○事務局（総務課） 2 名：

宮澤達（総務課長）

塩原長（企画係長）

（司会：宮澤達）

1. 開会（丸山副会長）

2. 会長あいさつ（山沖会長）

委員会も残すところ 2 ヶ月となり最終コーナーに入ってきた。2 月 22 日には町長から財政シミュレーションの話聞き、それを踏まえて最終答申を仕上げることになる。

ただ、すでに昨年末から答申案のたたき台については議論を始めており、それを踏まえて現時点での案文を総務部会で作成したので、今日はそれについて検討しておきたい。皆さんからの忌憚のないご意見を頂き、よりよいものにしていきたい。

3. 総務部会報告（塩原係長）

日時 2 月 6 日（金）午後 3 時～ Zoom によるオンライン会議

出席 山沖会長、宮嶋委員、村端委員、辻委員

オブザーバー 丸山副会長 和澤委員 山崎委員

内容 最終答申（第六次）のたたき台について

4. 協議

1. 最終答申（第六次）のたたき台について

山沖会長

先ほども触れたように、今日示したものは、あくまでもたたき台であり、今後 3 月まで細部も含めて検討して行くことになる。

たたき台の構成については、まず前文があり、本文は大きく 3 つにわけ、Ⅰでは「財政健全化のために特に池田町に求められる視点」、Ⅱでは「財政運営にあたっての基本的考え方」、最後にⅢとして、残った諮問事項のうちの増収策について記載している。諮問事項 4. 5 のうち、増収策以外の部分は今回の答申案全体に盛り込まれている。

<以下、前文とⅠを読み上げて提案>
ここまでの意見をお願いしたい。

村端委員

Ⅰの「第三に」の段落で、「ロードマップを策定し」とあるが、Ⅱの(3)ではロードマップとともに「行財政改革プランの策定」が出てくる。あとの記述をそのまま読めば、Ⅰの「第三」では「行財政改革プランとロードマップの策定」となるべきではないかと思われる。ただ、ここは後の議論を踏まえないと結論はでないだろうから、Ⅱの議論をした上でもう一度戻って適切な文言にしたらいと思う。

山沖会長

ここで言っているロードマップは、今回の答申に対するロードマップという理解でよいか。

村端委員

Ⅱでいうロードマップがどのようなものを意味しているのかが分かりにくいということだ。

山沖会長

では、もう少し先に進めさせて頂く。

<Ⅱ(1)～(5)までを読み上げて提案>

意見をどうぞ。まず、村端委員の意見は、行財政改革プランとロードマップの関係ということか。

村端委員

Ⅱ(3)の一つ目の○は、答申項目をどう実行するかというロードマップだろうと思う。ただ、そこでは「ロードマップを初めとした行財政改革の進捗状況について」とあるので、答申項目だけではなく他の項目も想定しているのではないかと読める。だから、答申に対して町が作ったロードマップは不十分なので、改めて作れと言っていると理解していいのかわるか。その点で曖昧さが残るとというのが率直な感想だ。

二つ目の○では、そのロードマップを参考に行財政改革プランを作れと言っているわけで、ここではプランに対するロードマップは想定していない。

山沖会長

ここでいうロードマップと行財政改革プランとは違うものであることは明らかだ。それはよろしいか。

村端委員

それは分かる。

前半の○の部分、完全に答申項目の実施のためのロードマップとした方がよいと思うが、そうすると(3)のタイトルには「ロードマップの策定・検証」と書きながら、二つ目の○で行財政改革プランの策定を主張しているわけだから、それであれば、タイトルも「行財政改革プランとロードマップの策定」とでもしないと整合性がとれないのではないのか、そのあたりの整理ができておらず、受け止める方が分かりづらいのではないか。

私は、二通りの考え方があると思っていて、まず一つは、前段の○は完全に答申項目のロードマップの実施、後段の○で、それに加えてより財政健全化をすすめるために行財政改革プランを作るようにするという考え方。

もう一つは、答申項目のロードマップは作ってはもらったけれど、不十分さを見れば分かるようにこの程度のものだから、それならば答申項目を含めて行財政改革プランをまず作成することを求め、後段で委員会を立ち上げてそれを検証してほしいというように書く考え方がある。

その両方がごっちゃになっているように受け止められる。

山沖会長

ただ、町が行財政プランと呼べるものを果たして作ってくれるかどうか分からない。

そうだとすれば、答申に対するロードマップは一度作っているのだから、前段ではそれを完全なものにして議会・町民に示しなさいとはっきり言った方が分かりやすい。

村端委員

答申項目以外にも、たとえば基金の問題などもあるし行財政プランに盛り込まなければならない項目はいろいろ出てくる。従って、後段では、町独自の10年程度のプランを作れという言い方なら理解できる。

山沖会長

「答申項目を実現するための道筋を盛り込んだロードマップを策定し直し、それを示すとともに、新たな行革委員会を立ち上げてロードマップを初めとした行財政改革の進捗状況について評価・検証をする」・・・これは最低限やってもらいたいことだ。更に「令和5年度に行財政改革プランを策定の上、行革委員会に諮り成案を得て公表すること」とするのはどうか。

村端委員

タイトルの先頭に、「財政健全化のための」とつけた方が分かりやすい。

宮嶋委員

ここで言うロードマップは答申 83 項目を実現するためのものであることが一つ。その他に、財政健全化をするためには、行政レベルで考えるといろいろなアイデアがある。例えば、これまで池田町が運営する生坂線の公共バスに 600 万円かかっており、生坂から寄付金を 80 万～100 万円もらっていた。そのバスを行政自ら来年度から生坂村に移管し、今度は池田町が寄付金を払うことにして、差額 400 万円くらいの財政削減が可能になった。このように、行政がやる気になれば、そのような事例はいくらでも出てくる。

そうした二つを合わせた、財政健全化のためのロードマップを作してほしいという趣旨にしてほしい。これでは答申項目だけのロードマップになってしまう。行政自ら考えたものを入れたロードマップが今後必要ではないのか。その意味が分かる記述にすべきだ。

山沖会長

今の話では、行財政改革プランがそれに当たるのではないかと思うが。

宮嶋委員

そうではない。行財政改革プランだけではなく、ロードマップにもそのようなものが入ってきてよい。我々の答申が全てではない。行政自らが本気で考えれば、もっと改革プランの項目がある。そのようなものを入れなければいけない。

山沖会長

そうすると、答申のロードマップと行財政改革プランとの差をどうつけるのかという話になる。

宮嶋委員

行財政改革プランは池田町では先例があり、平成 17 年か 18 年に 10 年計画で 1 度作っている。その中には、職員数を現在の例で言えば 106 人を 92 人にする、削減額は△5,000 万円だということから始めて、補助金についてはこの事業を削ってそこから 5,000 万円生み出すとかといった大枠を記入する、つまり、現在の課題に即して補強し拡充して改革の実効性が上がるような計画を立てるのが行財政改革プランだ。

山沖会長

ロードマップに合わせて行財政改革プランを作れという話か。

宮嶋委員

勿論そうだ。ロードマップがあるから行財政改革プランは要らないということにはなら

ない。

ロードマップは、答申 83 項目それぞれについての個々の問題だ。社協で言えば、令和 4 年度は 2,800 万円だが令和 5 年度には 2 千 700 万円にする、1,800 万円を 2,800 万円にしたのだから妥当な数字を見いだして令和 8 年にはこれだけにする、その道筋を表すのがロードマップだ。一つ一つの項目について到達目標と期限を決めて表にして町民に公開する、これがロードマップだ。

山沖会長

そうすると、行財政改革プランのイメージをどう見るのかにかかってくる。

村端委員

後半部分の行財政改革プランは、私の理解では行財政改革の基本計画だ。細部に渡って事細かに決めるものではない。宮嶋委員の話を踏まえれば、行財政改革プランおよびその実行のための行程表＝ロードマップというようにすればよい。そうすると、上段の答申ロードマップと行財政改革プランのロードマップと二通りのものが出てくるが、後者は前者を当然含んでいいわけで、どちらもあくまで財政健全化のためのものだと理解しておけばよいのではないか。これは宮嶋委員の考えと異なるのか。

宮嶋委員

ここでは、タイトルで二つ出してもいいと思う。タイトルでも行財政改革プラン及びロードマップと入れた方が分かりやすいかもしれない。

山沖会長

当初の書き方は、宮嶋委員が話されたような趣旨になっていた。村端委員からは、それだと行財政改革プランとロードマップが重なる部分があるのではないかという指摘だったように思うが。

和澤委員

10 年前の行財政改革プランというのは、民間の 10 人くらいを集めて、民間の考え方として行革をこうしてほしいというものだった。ところが今回は、行政でもっと改革を考えてプランを作ってくれということだが。私は今回の 83 項目が昔の行革プランとイコールのように思うので、プラスアルファで作れとなると、行政で作れるのかどうか。民間で大きく視野を広げた中で一緒にプランを作って行かなければならないのではないか。行政で来年の 3 月 4 月まで作れといっても無理ではないか。

山沖会長

我々の「答申とロードマップを参考に」とあるように、重なる部分が多いので1から議論しなくても済む。

宮嶋委員

行政が私たちに諮問した第5項目は、「行財政改革の計画策定・評価検証に関すること」となっており、その①で「行財政改革プラン（仮称）」を作成することを諮問している。

本来時間があれば、行政側から前回つくったものを補強して原案を出してもらい、私たちが2、3ヶ月審議して成案にするというのが本来の筋だった。ところが、もう時間がないので、次期行革委員会に委ねるという答申原案になっている。

行財政改革プランは文字通り計画であり、Plan Do Checkという言葉があるが、そのPlanにあたる。ロードマップはどちらかというとDoにあたる。行財政改革プランを作れるか作れないかの話ではなく、やってもらう。Doにあたるロードマップだけでいいという話にはならない。

山沖会長

プラスアルファがロードマップに代わるとなると、行財政改革プランとの差がファジーな世界になり、分かりにくくなる。ロードマップもプラスアルファが入り、行財政改革プランもプラスアルファが入る、その差をどう説明するかが問題になる。

宮嶋委員

前回の行革プランを事前に見て意見を言って頂きたい。そうしないと堂々巡りになる。行財政改革プランといっても、こうでなければいけないという決まりがあるわけではない。前回作ったものが正しいと言っているわけではなく、それを充実したものにしていけばよい。行財政改革プランとロードマップとは全然違う。それを認識した上で議論しないといつまでたっても議論がかみ合わない。

ロードマップというのは、83項目なら83項目のそれぞれについて道筋を示せというものだ。今前回の行革集中プランを画面共有しているが、行政で求めているのはこのようなイメージだ。

山沖会長

以前のものには人口ビジョンなども入っているのか。

宮嶋委員

私が言っていることは、行政は、青写真、Planがなければならず、いきなりDoに入るわけにはいかないということだ。すべての計画がそうになっている。Planが固まって始めてDoに行く。そこにロードマップが出てくる、このように整理して頂きたい。

山沖会長

我々の受け取った諮問に出てきているものとは違うように思えるが。

諮問では、最終的な答申内容に加えて人口ビジョンなども盛り込んだプランという書き方になっている。平成 18 年の池田町行財政集中改革プランとはやや違うものを求められているようにも見受けられる。

宮嶋委員

それなら、行政側で人口ビジョンをプランに入れた案を出してもらい審議したらいいだけではないか。

赤田委員

役場の意向としては、行財政改革プランをもう一度作らなければならないという前提だと思う。だから、その中に、我々の答申やロードマップを含めた新しい計画を作る、それを新しい行革委員会で早く提案してもらい公表してほしいとなっている。評価云々も、我々の答申やロードマップを作り直しても、それらは新しい行財政改革プランに含まれているという前提でよいのではないか。検証も、新しくつくる行財政改革プランを検証するという理屈になるのではないか。

前段のロードマップの定期的評価なども新しく作る行財政改革プランで評価検証することになる。それではいけないのか。

山沖会長

我々は行財政改革プランを策定した方がいいと言っているが、町側が本当に作るのかどうか。少なくともロードマップについては今回作っているので、それを策定し直すかどうかは別として、それに基づいて新しい行革委員会が進捗状況を評価検証することは十分ある。要は行財政改革プランができるかできないか分からないので、それまで何もしないでいいのかという問題だ。

その上で、先ほど、宮嶋委員から話があったように、広い意味でロードマップを考え、これまでの 83 項目に加えてそれ以外の 84、85 番目の目標を定めてそれを実現するためのロードマップを作成し、それを評価検証していくということだった。しかし、そうは言っても、諮問事項に行財政改革プランを作れという諮問もあることだから、それに触れないわけにはいかないだろう。それが二つ目の○の記述だ。

結局、答申項目プラスアルファのロードマップと行財政改革プランがどこまで似てくるのかという判断の差ではないか。

宮嶋委員の意見では、行財政改革プランはあくまで計画であり、年度毎の実施計画までは求めているということであれば、そこにまた行程表が入ってくるとちょっと違ってくる。

行程表まで考えると、行財政改革プランは、答申のロードマップにプラスアルファしたものと似たものをイメージしているように聞こえるが。

山崎委員

今ロードマップの話が出ているが、もう一つの視点は財政シミュレーションだ。これが22日に出されるということだが、我々としてはここまでだと思う。

答申項目のロードマップと財政シミュレーションを求めてきたわけだが、我々としては期限が限られているので、次期の行革委員会にバトンタッチしていくことになる。その先のことをイメージすれば、財政危機対応期間はまだ4年残っているわけだから、2期、3期と継続していくべきだということを示すのが、私たちの使命ではないか。

答申83項目でさえも達成率57%という状態だから、次期の行革委員会にしっかりとバトンタッチできるようにすべきだ。

山沖会長

行財政改革プランの前に「財政健全化のための」と付けると、どうしても重複感が出てしまうのだが。

山崎委員

ここでは、行財政改革という言葉が議論になっているが、ロードマップと財政シミュレーションもしくは財政計画という言葉で置き換えられないか。財政シミュレーションは言い換えれば財政計画だから、そうした方が落ち着くのではないか。

山沖会長

その点については昨日の総務部会でも議論になった。第6次総合計画の見直しには財政計画も入ってくる。財政計画を作るのであれば、それに対応する財政シミュレーションも必要になる。今回、町から示されるのは、あくまで行財政改革のための財政シミュレーションではなく、フラットに町の財政はこうなるということなので、今回、我々が求めている答申項目やプラスアルファについては、行財政改革に関するものだから、今回示されるものとは性格が異なる。

村端委員

(3)の構成として、一つ目の○は答申項目の実施にあたってのロードマップをきちんと実施せよという趣旨だ。ただ、我々としては任期切れだから、次期行革委員会でやってほしいということは筋として通る。

もう一つは、宮嶋委員の話の通り、答申項目以外にも財政健全化のための様々な課題や項目がある。町は人口ビジョンも含めてと言っているわけだから、行政的な面も含めた行財政

改革プランは基本プランとしてあってよい。

従って、二つ目の○は、財政健全化のための行財政改革プランおよびその実施のためのロードマップとしておけば筋は通る。ただ、(3)に全体として「財政健全化のための」とそれぞれに入れるのがくどいようなら、タイトルにそれを入れておけばいいのではないか。その上で、(3)は当面の課題だから、(2)と入れ替えた方がより分かりやすいのではないか。

山沖会長

そうなると、上段の○のロードマップは、宮嶋委員の言っていることとは違ってくるのではないか。答申項目だけでよいという趣旨になるのではないか。

村端委員

いやそうはならない。(3)のタイトルでロードマップと掲げれば、答申項目の実施のためのロードマップも、それに他の項目を加えたロードマップも両方意味する。

(2)(3)の入れ替えはともかく、タイトルに「行財政改革のための～」とすればよいというのが発言の趣旨だ。

山沖会長

その意味であれば、ロードマップの策定というより、見直しとした方がいいかもしれない。

宮嶋委員

タイトルでロードマップの見直しと言ったところで、この前に町から出してもらったものはロードマップには値しないという声明を発表した。だから見直しという言葉は当たらない。

赤田委員

そもそも、行財政改革プランを新しく作るときには、私たちが答申した内容がロードマップに含まれているという前提ではないのか。だとすれば、あえて二つの項目を挙げる必要はないような気がする。行財政改革プランに、答申のロードマップが含まれている前提であれば文章はもっとすっきりすると思う。そうではなく、私たちの答申はそのまま独立していて、役場の行政サイドのものだけを行財政改革プランとして作るなら二つとも書かなければならないが、新しくできる行財政改革プランに私たちの提案内容を盛り込んでほしいということになれば、両方書く必要はないのではないか。

村端委員

先ほどからの会長の意見では、現在の答申のロードマップについてはしっかりやることは当然求めていかなければならない、二つ目として、町から行財政改革プランを作ることを

求められているから、それについて記述するという話になっている。

私自身の個人的な考えをいえば、現在のロードマップについては、今の状況では町はあの程度のものしか出せないわけだから、その意味では、いま赤田委員から話があったように、第1項目に、行財政改革プランをまず作ってそのロードマップをしっかりと策定し、議会・町民に分かりやすく示せとし、第2項目に、それを検討・検証する委員会を立ち上げる必要があると整理した方が分かりよい。

当然ながら、その行財政改革プランには当然現在の答申項目は含まれるべきだという前提で考えているのだが。タイトルも含めてロードマップという言葉が多く出てくると話が複雑になってしまう。

山沖会長

今回のロードマップは不十分だからもう少ししっかりしたものを作れということとは言わなくてもいいということか。その前に行財政改革プランを作れという趣旨か。

村端委員

個人的にはそのように考えているということだ。

前回、町がプランを作った際には、その前に委員会を設け諮問を受けて答申を出している。それをもとに10ヶ年の計画を作っている。それはあくまで基本計画であり、そのロードマップはなかったような気がする。今回は、その経緯から考えると、これまでの行革委員会の議論・答申を踏まえれば前のものよりも遙かに優れたプランを作ることは可能だ。その気があるかどうかの問題はあるが。

だから、今回の答申内容も含めた行財政改革プランを求めることをはっきり言っているのではないか。そのロードマップをどうつくってもらえるのか、そこで町の本気度が試されるということだ。

ここは意見の分かれるところなので、もう少し議論をしたらよい。

宮嶋委員

ロードマップを一旦脇に置いて考えると、我々が答申した83項目は実施してくださいというのは書くべきだ。これが一つ。山崎委員は達成率57%と言ったけれど、あくまで町が○×△を付けただけだ。我々が付ければ20%にもならないだろう。

もう一つは、行政側で言っている行財政改革プランを策定してほしいということに対する対応だ。

ロードマップはあくまで目的を達成するための手段だからあまり拘らなくてもよい。

私は、まず83項目を実施しなさい、そして次の行革委員会で行財政改革プランを作って実行してください、これだけが文言に入れればいいのではないかと思う。

山崎委員

(3)の「財政健全化のためのロードマップ」を削除し、行財政改革プランを前面に出していくことが大事ではないか。宮嶋委員の話の通り、行財政の改革が使命であり、行財政改革プランの策定・検証を求めることが皆さんの総意ではないかと思う。

山沖会長

宮嶋委員の意見の通り、まず我々の答申項目の実施は言った方がよいと思う。

山崎委員

「答申項目の実現と～」とタイトルに書いたらどうか。

和澤委員

財政健全化のためにこのようなことをやってくれと2年間審議し83項目を答申した。急に行財政改革プランの中に入れてやってくれ、あとは行政に任せるとなると、2年間やってきたことがどうなるのか。行財政改革プランといっても1年くらいかかるわけだから、その83項目をしっかりとやってくれと言わないと中途半端になってしまう。

山沖会長

それが最初の趣旨だった。

和澤委員

行財政改革プランを作れ、それが行政の役目だというのは理論的にはそうかもしれないが、現実的には改革が進まないと意味がない。では、1ヶ月、2ヶ月で行政がそのようなプランを作れるのか。それを次の委員会に示してスタートができるのか。実際に可能なプランを立てないで、行政の責任だからと行政に押しつけるのはいけないのではないか。

山沖会長

宮嶋委員、村端委員の話に基づくとこのようにロードマップは要らないということになる（画面で文言を提示）。

和澤委員からの、「行財政プランを作れと言ってもいつできるのか」という発言も分かるのだが。

辻委員

そもそも、行財政改革プランをつくって、どれだけこれまでとは違う付加価値のあるものが出てくるのか、作る意味がどれだけあるのかという疑問が一つある。

また、行財政改革プランを作るといってもすぐにできるわけではないので、逆に行財政改

革プランを作るということが行政に改革先送りの口実を与える心配がある。

我々が一番目指すべきところは、ロードマップに示された個別の項目をできるだけ早くしっかりやってほしい、それを次期委員会でしっかりウオッチしてほしいということではないのかと思う。従って、行財政改革プランを作るにはメリット、デメリットがあるのではないか。

山崎委員

ここで少し休憩してはどうか。少し頭を冷やして冷静な判断をしたい。

山沖会長

休憩の後、その他の部分についても議論をし、時間があればまた今の続きに戻りたい。

<休憩>

山沖会長

では再開する。ロードマップについてはまだ議論は必要だが、他の部分でも意見があるかもしれないので、先に進めたい。

<「Ⅲ増収策」について読み上げて提案>

塩原係長

2 ページ (2) の 1 行目に「第 6 次総合計画の後期計画」とあるが、「後期基本計画」としてほしい。

山沖会長

他の部分では「第 6 次総合計画 (後期)」となっているので、あとで直したい。

村端委員

「総合計画の策定」となっているが、改めて策定するわけではなく、10 年計画の総合計画の後期計画だから「改定」とすべきではないのか。

塩原係長

後期基本計画自体はないのだから、策定でもいいのではないのか。

丸山副会長

第 6 次は 10 年間の計画であり、その前期が終わる。後期に入るに当たっては、前期を元にして後半の 5 年間を進めるわけだから新たに計画を作るわけではない。「後期の実施に当

たっては」とか、「実施をしていく中で変えるべきところは変える」となるのであって、やはり策定ではないだろう。

山沖会長

その意味からすると「改定」だろう。

<このあと、文中の「社口原」の読み方（ふりがな）の問題、「地方の小都市」という表現などについて、若干のやり取りがあった>

丸山副会長

普通財産の売却に関わることだが、広津小学校跡地はどこの財産か。確か建物は体育館が残っていると思うが、町として何か話題になっていないか。

塩原係長

広津小学校跡地は町の普通財産だ。建物は特に話題になってはいない。あそこは何とかして元に戻していかなければならないところだが、そこに手を付けるとなると壊すためのお金がかかるので、目処がついたところで対処することになっている。とりあえず建物をなくす必要があるが、財政面で先延ばしになっているのが現状だ。

山沖会長

売却は考えていないのか、また、何かに使うという予定はあるのか。

塩原係長

使う予定はない。売るにしても山の中なので、買ってくれる人がいればよいが、今のところは売れないだろうという判断だ。

丸山副会長

これは大きな話題になるかと思う。将来的には、広津のあの場所が元気を取り戻す時代も来るのではないかと期待し、胸に留めておいて頂ければありがたい。

村端委員

「(5) 基金の計画的積み立て」について、ここに書いてあることには問題はないが、基金には財政調整基金もある。町長の見解では、今後財調は5億円程度にすることだったように思う。ただ、池田町の過去の実情からすると、財調に力点を置いて積んできており、その結果、財調をどんどん取り崩して現在のような状態を招いた。ここで、町はこれまでの方針を変えて財調を5億円程度に留め、残りの基金に重点を置くことを基本方針として決

めているのであれば、ここで改めて触れる必要はないだろうが、その点がどうなのか、課長から町の対応を聞きたい。

宮澤課長

財政調整基金については5億円を基準に、それを下回らない水準にするという考えだ。

村端委員

財調は5億円前後に固定した上で、それ以外の特定目的基金や減債基金に力点を置くという考え方になっているという理解でよいか。

宮澤課長

その通りだ。

山沖会長

以前は財調に積み続けていたが、それは止めたという判断でよいか。

宮澤課長

繰越金の1/2を財調に積むというルールがあると聞いているが、財調については5億円を基準に推移できるようにしていきたいということだ。

<このあと、財政用語「公債費残高」「地方債現在高」について若干のやり取りがあった>

山沖会長

では、最初に戻って、ロードマップの部分についてももう少し議論を続けたい。先ほどは対極の二つの案をまとめた（画面共有で提示）。

要は、町が行財政プランを作ってくれるのであれば、それを前面に出すということはあるが。ただ、答申の実現は必ずやってほしいので、それは最初の○として入れておいた方がいいだろう。

村端委員

先ほど宮嶋委員がまとめた二つの項目を柱にすることは今日確認できるのではないかと。ただ、町が行財政改革プランを作る意思があるのかどうか、その能力があるのかなどと、ここで話しても仕方がない。町が作るか作らないかではなく、我々の要望として、行財政改革プランは必要だと主張することが必要だ。

次の町長との意見交換で行財政改革プランについての行政の考えも聞いた上で、その後にも議論をした方がいい。それまで、二つの文案についてはペンディングとしておいたら

どうか。

山沖会長

今日はこれ以上議論していてもしょうがないので少し冷やした方がよさそうだ。

瀧澤委員

いままでの議論を聞いていて、いま町で一番欠けているのがロードマップを作成するところが抜けていることで、そのために前へ進んでいけないのではないかと思う。ロードマップを作成することによって、課題が明確になったり、ゴールに近づいたりすることもできるし、プロジェクトの方向性も揺るぎないものになる。ロードマップを作成する重要性は大事にして、その言葉はどこかに入れて頂きたい。

丸山副会長

「Ⅲ（３）魅力ある町づくりの重要性」について、この中に全国的・世界的な話題になっている少子化対策、移住定住対策という文言をきっちり入れて、歯止めをかけることの重要性を説いて頂いているのが、それらの例に加えて次のようなことを入れるのはどうか。

若い皆さんの新しい産業の立ち上げ支援、あるいは可能であれば町外からの工場誘致、人口増で大事な若い世代の出会いの場・機会を町として支援していくことなどが必要ではないか。若い世代の出会いの場づくりは町としても一生懸命取り組んだ時期があり、今は毎月1回ずつ定例会を開いて情報交換しているが、このようは幅広いことも入れておけば魅力ある町づくりにつながるのではないか。

黒田精工が工場を広げたことで、池田町も少し魅力がプラスされたかと思うが。新しい産業の立ち上げは難しく、どう考えたらいいかわからない。今米作りに加えて、新しい作物に取り込んでいこうということで、長ネギやニンニク、加工用トマトなどに取り組んできたが、そのような産業に働き手を呼び込むことは可能ではないかと思える。

村端委員

今の丸山委員の話は大変よく分かるのだが、この文脈から言うと増収策の中での例示だ。

今話されたことは、第6次総合計画の改定の中で、さらにより具体的に発展させていくべき問題ではないかと思う。ここでは、増収策というと、ややもすると、ふるさと納税とか、財産を売るとか、そのような個々の話に目が行ってしまうので、勿論それも大事なのだが、それと同時にこの町を全体としてどのように魅力あるものにするのかが根本的な増収策なのだということを強調することに力点がある。

そのような文脈なので、ここでは必要なことを端的に指摘し、魅力ある町づくりの具体的な展開は別の場でしっかり議論していった方がよいのではないかと思う。

丸山副会長

今のお話はよく分かった。確かに自立の町づくり、魅力ある町づくりには、様々な取り組みがそれにつながっていくので、ここではこの程度でよいと思う。

山沖会長

書くとすれば、働く場の創出などはあってもよいかなと思う。しかし、例示をいくつも並べても、文章として意味があるかどうかもある必要がある。

その他に意見はないか。(特になし)

保留にした文面は、後日、詰めていくこととし、今日はこれで一旦締めたい。

2月22日は午前中の会議なので間違いのないようお願いしたい。

今日は、いろいろと意見を頂いた。このあと2月22日に財政シミュレーションについて話を聞き、それを受けて中身が変わるところや、新しい視点を入れるところ、もっとこのように強調すべきだなどというところが出てくるかもしれない。

今日、まとめた案文については、保留したところも含めて、皆さんにもう一度送付する。

塩原係長

「集中改革プラン」と「池田町まちづくり推進プラン」のネットでのリンクをメールでお送りするのでご覧頂きたい。

<この後、議事録についてのいくつかの連絡>

5. 今後のスケジュール

<「次第」に記載の日程を確認>

山沖会長

財政シミュレーションは、2月20日に議会にかけられるので、議会終了後には皆さんに送付して頂くようお願いしてあるのでよろしく。

6. 閉会（丸山副会長）